

「話し合う」情報モラルの授業

聖母被昇天学院中学校高等学校
教諭 岡本 弘之

1. はじめに

情報科の授業をしていると、生徒の間に急速に SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の利用が増えていることを感じる。リクルート進学総研が行った「高校生の Web 利用実態」調査によると、高校生の SNS 利用率は 77.0%であり、前年比+15.7%であった。

この現状を受け今年度の情報科の授業において、「SNS も含めた情報発信の際の注意点・活用を学ぶ授業」を企画した。本実践では生徒がより主体的に授業に取り組ませる工夫として、次の点を工夫した。

- ①経験交流や話し合いによる学びを取り入れる
- ②話し合いを活性化するため、KJ 法やブレインストーミングの手法も取り入れる
- ③影の部分だけでなく活用まで考えさせる

①については、生徒への挙手による調査で、ブログ・SNS による情報発信をしている生徒とそうでない生徒の割合は半々であった。このことから話し合いを行い、その中で活用している生徒から、そうでない生徒への経験交流を期待した。

②については、より多くの意見を出させるため、これら社会でもよく使われる手法を教え使うようにした。

③については、情報モラル教育の目標である、「注意すべき点を知るだけでなく、もう一段階上の賢く使う方法についても考えさせる」ようにした。

2. 授業の実践

高校 2 年生の情報 C の 1 学期の授業で、3 時間を使って実施した。授業の目標としては「生徒が Web・ブログ・SNS で情報発信する際に注意すべき点を知り、活用するための力をつける」ようにした。

(1) 知識の整理をする (1 時間)

インターネット上で個人が情報発信に用いる Web・ブログ・SNS それぞれの特徴について、更新の容易さ・双方向性・公開範囲といった視点で整理する講義を行い、生徒はその話をワークシートの表にまとめた。

SNS については知らない生徒も半数あったので、主な SNS の画面構成・参加人数・特徴を筆者の実際のページを見せながら説明をした。

説明後、アクセス数の多い人気ブログをいくつか紹介し、誰をターゲットにどんな情報が発信されているかについて各自で分析させた。

(2) 利点と注意点を KJ 法で整理する (1 時間)

自分の経験や聞いた話から、ブログ・SNS など個人が

情報発信する際の注意する点、便利な点をワークシート・付箋にそれぞれ書かせた。それに加えて、同様の内容を Web でも調べさせ、ワークシート・付箋に記入させた。

この準備のあと、座席で指定した 4 人ずつのグループで、注意する点・便利な点ごとに、画用紙に付箋を貼りつけ、似た内容をグルーピングする KJ 法の手法で項目を整理させた。

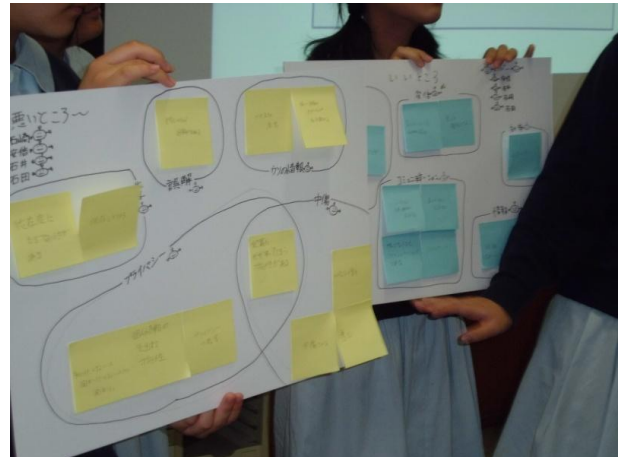


図 1 発表風景と生徒がまとめた用紙

整理した画用紙をもとに各グループ 1 分程度で全員の前で発表させ、自分のグループ以外の発表について、ワークシートにメモさせるようにした。

すべての発表終了後、生徒があげた項目のスライドを用い、授業者が解説・補足説明を行った。

①生徒発表「分析：ブログ・SNS の利点・注意点」

いいところ・長所	注意するところ・課題
<ul style="list-style-type: none">・個人が情報発信しやすい・コミュニケーションが豊かになる(交流)・情報の収集がしやすい・同じ趣味を持った人とつながりやすい・情報交換が楽しめる(双方向性)・いつでもどこでも発信できる・連絡が取りやすい・交流が楽しい・ともだちが増える・簡単に更新・書き込みができる・自分が思ったことをすぐ書き込める	<ul style="list-style-type: none">・荒らす人の被害にあうかも・個人情報知られやすい・ウソの情報も多い・誰に見られているか分からない・人間関係が悪くなることもある・写真付きだと居場所が特定される・犯罪に巻き込まれる・登録するときの手間・参加する人が限られている・危ない人からの連絡の可能性も・依存・疲労の危険性・なりすましの問題・他人を傷つけてしまうかもしれない
<ul style="list-style-type: none">・簡単(いつでも書き込める・更新が楽)・コミュニケーション(同じ趣味)・誰でも発信できる・情報交換できる(双方向)・SNSは友人のみに情報をできる・いろいろな情報を得ることができる・人脈形成に便利・国際交流・やりとりがスピーディー・友人とのやり取りが楽しい(様子・レス)	<ul style="list-style-type: none">・うその情報、正しさが分からない・悪口・中傷・依存症になりがち・著作権の侵害・個人情報漏れる・批判される危険性・トラブル・知らない人知り合う危険性・誰に見られているか分からない・知らない人からの申請

図 2 生徒が発表した項目のまとめ(解説で使用)

(3) 活用を考える (1 時間)

情報発信する際の注意点・便利な点を整理した上で、活用について考えさせた。具体的には「学校が公式ブログ・SNS ページを作った場合、どのような情報を発信すればいいか」というテーマで、情報を発信するターゲット・それに合わせた情報の内容について 4 人グループで話し合わせた。

ここでは数多くの活用のアイデアを出すために、ブレインストーミングの手法をつかった。意見を否定せず

くさんの意見をだすというブレインストーミングのルールを最初に説明し、アイデアを考えさせた。

考えたアイデアは付箋に記入させ、その付箋をもとに、最終的にはKJ法を使って整理させた。

このまとめた意見も各グループ1分程度で発表させ、全員で共有した。

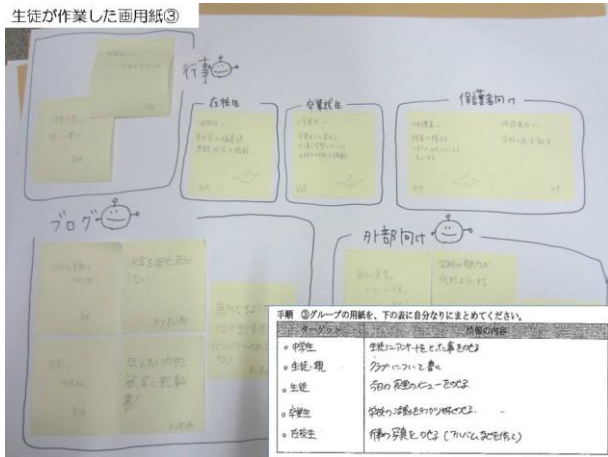


図3 まとめの用紙と個別のワークシート

3. 考察

今回の話し合う情報モラルの授業について、生徒は何を学びどう感じたのだろうか。最後に書かせた生徒の感想から振り返ってみたい。

①注意事項の調べ方がわかった

話し合う前にインターネットで注意事項について調べさせたことで、現在利用している生徒も新しい発見があった。インターネット上のコミュニケーションは次々と新しものが現れる。知識を教えるだけでなく、調べ方を教えておくことは、将来新しいツールが現れても対応できる生徒を育てることにつながる。

②具体的に新しい注意事項がわかった

生徒の発表からは、スマートフォンで撮影した写真に位置情報が残ること、SNSのプライバシー設定の方法など、具体的に新しい注意事項・利用方法が出た。

講義形式で行っていた従来の自分の授業では、こういった細かな注意事項まで説明できなかったが、生徒の発表に解説を加える形式としたことで、より多くのことを教えることができた。

③マイナス面・プラス面のバランスが良かった

活用している生徒からプラス面について多くの意見が出され、マイナス面に偏らないバランスの良い授業となった。生徒の感想にも「使い方を間違えなければいいものになる」、「守らなければいけないマナーもあるが、コミュニケーションが広がる」といったバランスのよい感想が多くみられた。

④受け身ではなく主体的に授業に取り組めた

生徒たちは積極的に、意見を出したり、調べたり、話し合っていた。生徒の感想にも「友達の見解が参考になった」、「KJ法は楽しかった」、「たくさんアイデアが出てくるのが面白い」といったものが多くみられた。

4. まとめ

従来から生徒が興味を持つ情報モラルの授業をめざして工夫してきた。今回実践した「話し合う情報モラルの授業」の効果をもとめると、次の4点になる。

- ①「準備→話し合い→発表→教師の解説」の各段階で生徒の学びがあった
- ②KJ法・ブレインストーミングといった話し合いの方法を使ったことで、全員が話し合いに参加でき、活発な意見交換を行うことができた
- ③注意点だけでなく、利点を知ったことで、積極的な活用を考えることができ、活用を考えることで発信者側のねらいも考えることができた
- ④生徒が主体的に取り組んだことで、自分のブログを見直すなど、次の行動につながった。

今回の実践では、生徒が活発に話し合いを行い、意見・アイデアを出し合う姿が印象的だった。

情報モラルの授業はともすれば、一方的でお説教的な講義になってしまいがちであり、私自身も授業中ほとんど生徒の顔が下がっていく授業を経験してきた。

その反省をふまえ、今後も教え方の工夫を重ね、より効果的な情報モラルの授業を開発していきたい。

なお本実践も含め、今まで実践した授業のプリント・スライドは以下のWebで公開している。

「情報科の授業アイデア」 <http://www.okamon.jp>

参考文献

- (1)リクルート進学総研「高校生のWEB利用実態(2012年4月実施)」(<http://souken.shingakunet.com/>)2012.7.3 確認
- (2)文部科学省(2010)「高等学校学習指導要領解説 情報編」開隆堂
- (3)岡本弘之、浅井和行「高校生が中学生に情報モラルを教える授業の実践」日本教育メディア学会「教育メディア研究」第17巻第1号, pp.27-36